

こども新聞 週刊がほピョンプレス

毎週日曜発行
2026 5/10



河北新報社 TEL.022-211-1111(月曜から金曜)

地球のためにできること

ブラックバスの駆除活動



宮城県北の登米、栗原両市にまたがる伊豆沼・内沼で研究者や市民ボランティアらが協力し、20年以上、ブラックバスの駆除活動が続いているよ。元々は北米に生息する淡水魚なんだけど、沼

きょうのテーマ

沼の生き物の多様性を守る



にすみ着いて魚やエビを食べてしまい、水辺の環境を変えてしまったんだ。駆除活動のおかげで、一度は姿を消した魚も最近は見られるようになってきたんだって。



県伊豆沼・内沼環境保全財団の藤本泰文さん(50)によると、沼で初め



ブラックバスの卵を駆除する仕掛けの準備をする藤本さん
4月23日、栗原市

みんなの将来

みんな動こう

みんな知りたい

みんな守ろう

みんなトモダチ

てブラックバスが確認されたのは1980年代後半です。誰かが釣りを楽しむために放したと考えられています。釣り雑誌には「ブラックバスを大きい池に放そう」という記載もあったそうです。ブラックバスは繁殖力が強い魚です。産卵期は4〜6月で、一度に産む卵の数は数千個。ふ化後、しばらくはオスが外敵から稚魚を守る習性があり、一度すみ着くとどんどん増えてしまいます。

問題は他の生き物たちへの影響です。藤本さんによると、水中に網を

1日置く調査をしたところ、96年は魚やエビが2300匹捕れましたが、2000年は100分の1の23匹に激減しました。



急増したブラックバスに食べられた可能性が高く、危機感を抱いた研究者や市民らは04年「バス・バスターズ」と名付けたボランティアの駆除活動を開始。数千個の卵を一網打尽にする仕掛けなどの対策が成功し、ピーク時に数千匹いたブラックバスの数は大幅に減



伊豆沼・内沼で捕獲された全長約50cmのブラックバス=2025年8月(宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団提供)

り、現在は100匹前後と推定されています。一度は姿を消したゼニタナゴも網にかかるようになりました。ゼニタナゴは近い将来、絶滅の恐れが高い「絶滅危惧種」に指定された魚です。以前の環境を取り戻しつつある証しと言えます。

藤本さんが強調するのは「多様性」の大切さです。ブラックバスのような外から入ってきた生き物の影響が大きくなる、その土地、その土地の豊かな生態系が崩れてしまいます。藤本さんは「沼の多様性を守り、次の世代に残すことが私たちの使命です」と話します。

◇
バスの卵や稚魚を捕まえる今年のバス・バスターズ活動は今年24、31日と6月7、14日にあるよ。興味のある人は財団に問い合わせね。連絡先は0228(333)22216。

この日 何の日

◇10日(日) 地質の日

1876年のこの日、アメリカの学者ベンジャミン・スミス・ライマンらが日本で初めてとなる広域的な地質図を作成したんだ。日本にある鉱山など地下資源開発に大きな貢献を果たしたんだよ。

きょうの紙面

- 2面 イマ★どき
- 3面 3分チャレンジ
- 4・5面 わが校わがまち スクール通信
- 6面 キホンがわかる こども英語
- 7面 投稿特集
- 8面 対訳備えのコンパス